

民進党代表選挙候補者記者会見・全文

2016年9月2日（金）13時28分～14時25分
於 民 進 党 本 部 5 階 ホール

■開会

【司会・難波奨二代表選挙管理委員（参議院議員）】

ただいまより民進党代表選挙候補者共同記者会見を開催いたします。私は、本日の司会・進行を務めます難波奨二でございます。どうかご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

それでは最初に、神本美恵子代表選挙管理委員長からご挨拶を申し上げます。

【神本美恵子代表選挙管理委員長（参議院議員）】

報道関係の皆様、そしてテレビ・インターネット中継等でご覧をいただいている皆様、私、今回の民進党代表選挙管理委員長を務めます神本美恵子でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

けさ10時から11時まで行いました立候補受付の結果、3名の候補者が立候補を届け出ました。届け出順に、向かって右側から蓮舫候補、前原誠司候補、玉木雄一郎候補の3名でございます。

本日、9月2日から、党の代表を選出する15日の臨時党大会まで、3名の候補者を先頭に、党员・サポーターの皆様はじめ国民の皆様に、民進党の政策や目指す社会像を訴え、議論する、そういう代表選挙を進めていきたいと考えております。ぜひ多くの皆様に関心を持っていただきたいと思っております。活発な政策論争を通じて、新しい民進党を代表する党代表を選出する選挙にしたいと考えております。

それでは、ただいまより民進党代表選挙候補者共同記者会見を開会いたします。よろしくお願い申し上げます。

【難波司会者】

それでは、共同記者会見の進め方についてご説明をいたします。

最初に、届け出順に各候補者から5分ずつ政見を述べていただきます。

その後、共同記者会見として、報道機関の皆様からご質問をいただき、（候補者に）お答えをいただきます。

質疑の最後に各候補者からまとめの発言をいただき、候補者揃ってのフォトセッションで締めくりたいと思います。

■政見表明

【難波司会者】

それでは、候補者の皆様からそれぞれ5分以内で政見をお話しいただきます。

【蓮舫候補（参議院議員）】

よろしくお願ひいたします。

あらためまして、民進党の第1回目の代表選挙に立候補した蓮舫です。

私が目指すのは、「新世代の民進党」。そのために「ガラスの天井を打ち破る」。そして、「信頼を取り戻してワクワクする政治をつくる」。そのためにしっかりと、代表となってこの党を引っ張っていきたくとあらためて思っています。

つい1ヵ月前、7月の参議院議員選挙、日本じゅうを回りました。何でもあると言われる、ひとり勝ちと言われる首都・東京という選挙区でも戦いました。「景気がいい」「経済がいい」、今の政権が何度も強調している。でも、実際の日本はどのようなのだろうか。残念ながら、せつないまでの不安がいろいろなところに横たわっていました。

「少子化」と言われてもう20年たっている。少子化は止まらない。でも、さらにさらに残念な環境が広がっているのは、せつなく生まれた大事な子どもの6人に1人、ひとり親家庭に至っては2人に1人の子どもが貧困です。子どもを育てることができないと悩んでいるお母さん・お父さんたち、子どもが頑張って大学に行ったら2人に1人が奨学金、大学出たら4割が非正規社員、300万円の平均の借金。これは「自己責任だ」と言えない事態が広がっていると、私は思いました。

この30年で、共働き世帯は1.5倍になった。でも収入は、1人働いている時よりも、2人働いている今のほうが2割減っています。労働生産性が残念ながら上がっていない、賃金に反映されていない。あした、1年後、2年後、わからない。そんな雇用の不安が広がっている。

人生の先輩、この国を戦後71年間引っ張ってきて、豊かさをもたらしてくれた、平和をもたらしてくれた先輩たちには、年金・介護・医療、自分たちは大丈夫なのだろうか、こんな不安が渦巻いている。

すべてのライフステージにおいて、私は、信頼・安心を取り戻したい。安心さえあれば、それは欲しいものを我慢しないで消費につながる。実需が生まれます。企業が豊かになる。それがまた家計の収入に反映されて、「安心の好循環社会」を、蓮舫は代表としてつくっていきたく。

もちろん前原さん、玉木さん、これまで一緒に私たちは政策をつくってきました。同じ方向を見えています。そして、同じ国をつくりたいと思っている。それはあくまでも人に着目した、人を大事にした、「人」に私たちは投資をする。将来の納税者、将来の社会保険料の納付者をしっかり育てていって、日本に生まれてよかった、愛すべき日本をしっかりと自分たちが次につないでいく、そのような絵を描いていきたくと思います。

もう一つは、私の、道半ばの残していることは行政改革です。政権にいたときにも取り組ませていただきました。孤独なまでの戦いだった。ヒト・モノ・カネ、その癒着、そして抵抗というのは相当強かった。表に出すことでもない、表で言うこともないこといっぱいありました。

でも、それでもこの国の財源は限られています。人口は減少する時代になりました。昭和のように人が増え、モノが売れ、企業が豊かになり、家計が豊かになる時代ではなくて、人が減り、そして女性が結婚をしない、子どもを産まない。男性も収入がなくて、子どもを持ってない。随分と日本の家族のあり方や景色も変わってきました。あらためて、限られた財源、そしてその中で成長と豊かさを求めるのであれば、財源は大事に使うべきです。

この3年9ヵ月、「行政改革」という言葉が随分遠のきました。東京オリンピック・パラリンピック、都知事が女性になってリーダー力を持って初めて、無駄遣いにメスを入れられる。「政府は何をしているんだ」という思いを私は強く持っている。玉木さんと、この部分は党内で戦ってきました。引き続き行革、中途半端な行政改革をしっかりと私は完遂するために取り組んでいきたいと思えます。

行革なくして、やっぱり増税はない。私たちの行革への飽くなき思いをしっかりと皆様方にお伝えをして、限られた財源を大事に使って、税金が行政サービスで絶対に返ってくる社会。子どもでも、学生でも、大人でも、高齢者でも、すべての世帯に、納税に納得できる行政サービスが返ってくるような、そういう政治を民進党はこれまでも求めてきました。届いていない部分をしっかりと届ける蓮舫の代表という形を目指したいと思えます。

【前原誠司候補（衆議院議員）】

皆さん、こんにちは。衆議院議員の前原でございます。このたび民進党の第1回の代表選挙に立候補を決意させていただきました。

今、国民の中には、自民党の安倍政治に対して評価をする人はあまりいないと思えます。しかし、支持率は50%、60%。最大の原因は何か。受け皿となる野党がない、これが大きな原因であり、野党第一党である我々の責任は極めて大きいと私は思っています。幾らいいことを言っても聞いてもらえない、この状況が続いています。

参議院選挙のときに、ある演説会場で話をして、商店街を回りました。そのときに八百屋のおじさんに言われたこの言葉が忘れられません。「幾らきれいなことを言っても、あなた方の言葉には聞く耳を持たない。あれだけ期待したのに、あの民主党政権は何だったんだ」。その言葉が今でも重くのしかかっています。

私は、旧民主党政権の戦犯の一人だと思っています。あれだけ期待をいただきながら、我々自身、いろいろやった、できたということは、それはあるでしょう。しかし、政治は結果責任。多くの方が失望した。そして「民主党なんか二度と期待しない」と言う人たちが、まだまだいる。この信頼を回復するのは並大抵なことではありません。

私は、深い反省と、旧民主党政権ではむしろ何もできなかったんだという、潔さ。そして国民の前に一旦土下座をして、「我々の政権では皆さん方の期待に応えられなかった。申しわけなかった。しかし、一強多弱、民主主義が機能しない。もう一度我々にチャンスをいただきたい」、その土下座をする先頭に、私は戦犯であるからこそふさわしいのではないかと、そういう思いを強く持っています。

あわせて、私は今回、「All for All」という考え方を皆さん方に提示をさせていただき、民進党の新たな考え方にしたいと思えます。みんなが、みんなのために。どういうことか。

格差是正といえ、お金持ちから税金をたくさん取って貧しい方々に移転をする、これが今までの、我が党も含めて、格差是正の大きな考え方でした。税金をたくさん取られる人は租税抵抗が強くなります。「これだけ納めたのに、自分に受益がない」、そして「分配された先は本当に正しく使われているのか」「生活保護、ベンツ乗っている人もいないじゃないか」、そういう声が聞こえる。しかし皆さん、生活保護で不正受給は0.5%、しかし生活保護水準以下の生活で生活保護を受けている人は20%以下です。8割以上の方が、実はやせ我慢をして生活保

護を受給せずに、子どもが学校に行っていじめられないようにということで、歯を食い縛っているシングルマザーの方々もたくさんいる。この状況をどうやって政治が救うのか。

自民党は、企業をもうけさせ、株価を上げさせて、そして、「いずれはみんな豊かになるだろう」。なっていないじゃないですか。それをしっかりと再分配政策で、国民の不安に応えるためには、みんなが少しずつでも負担をし合い、みんなが受益者になり、不満が生まれない、みんなが納得して税を納め、そしてサービスを供給して、結果として格差がなくなり、多くの方々の不安が払拭される、そんな社会をつくらなければいけないのではないのでしょうか。私は、その先頭に立たせていただきたいと思います。これが「All for All」です。

その中核は、子ども、そして心配をされているお年寄りです。まともに教育を受けられない子どもたちがたくさんいる。すべての人に教育の機会を与えるというのは、我々政治家の責任ではないのでしょうか。その体制ができていない日本を変えていく。行革も大事、しかし、それ以上に、必要な財源については「All for All」の考え方に基づいて、国民の皆様方に負担を求め、そして0歳から5歳までの就学前教育はとにかく無償化する。職業訓練、高等教育についても、負担軽減をしていく。お年寄りについても、しっかりと介護の体制を整えて、安心をしっかりと提供していく。

「人への投資」が経済成長につながる、そういう社会をつくるために先頭に立たせていただきたい。そう思って立候補の決意をいたしました。

よろしくお願い申し上げます。

【玉木雄一郎候補（衆議院議員）】

皆さん、こんにちは。玉木雄一郎です。

民進党としての初めての代表選挙に、まずこうして立候補させていただいたこと、本当に光栄に思っています。支えてくれた仲間にも心からの感謝と敬意を申し上げたいと思います。

その上で、私たちは変わらなければなりません。先ほど蓮舫さん、前原さんからも話があったように、残念ながら民進党は国民の信頼を集めることができていません。いろいろなことをやってきました、民主党時代のいいことも語ってきました、それでも信頼されない。そうであれば、我々は根っこから変わっていかねばなりません。

私は、当選3回です。47歳です。今回の出馬に至る過程でも、「おまえは若過ぎる」「当選回数が少ない」、どれだけの人に何回こういうことを言われたかわかりません。私自身がそう思っています。でも、そんな私がこの代表選挙に出馬し、変革の思いをがむしゃらに訴えないと、国民には私たち民進党が本気で変わろうとする覚悟を見せることができないと思ったから、今回、私は出馬を決断しました。

しかし、この戦いは単に民進党のための戦いではありません。「一強多弱」という時代が続き、権力の横暴が目立ち、我が国が戦後大切にしてきた平和主義や立憲主義が、今、大きな危機に瀕している中で、我々がその対抗勢力になれていないことは、日本の政治に対する責任を我々が全く果たせていない、そんな責任を強く感じています。もう一度、自民党に代わる、国民に信頼して選んでいただけるような、そんな政治集団をゼロからつくり直したい。それが私の出馬した最大の理由です。

特に、今の自民党には、自由でリベラルな、そして包み込むような包容力のある、そんな本

当の意味での保守の考えがなくなっていると思います。敵をつくり、相手を叩き、社会を分断し、「誰が悪い」、こんなことを幾ら言い募っても、国民は幸せに、そして安心することはできないと思っています。そんな「リベラル保守」、私はこの考えを民進党の一つの大きな考えにして、国民の選択肢たる政党をつくりたいと思います。

もちろん簡単なことではありませんが、今回の代表選挙を通じて、新しい民進党のページを開いていきたいと思っています。新しいページを開く、そして次世代の民進党の代表として、この選挙を闘い抜きたいと思っています。

最後に一つ。これからの大きな国家ビジョンや政策を闘わせ合う、そんな選挙にしたいと思っています。

私は、具体的な政策が一つあります。「こども国債」です。財政法上、今、国債を発行し借金をできるのは建設国債だけ。それは見合いの資産が、橋や道路で残るから借金してもいい、こういうことで認められてきました。しかし今、日本が将来に残すべき最大の資産は人であり、人的資産です。私は、借金してでも、今の子ども・子育て施策5兆円、GDPの1%分を、倍の2%にし、どんな家庭に生まれても誰もが安心して子育てをし、そして教育を受けられる、そのための環境を整備したいと思っています。20年で100兆円の子ども・子育て予算を増額し、安心して生きていける社会をつくり上げていきたいと思っています。

大きな国家ビジョンを訴え、国民の皆さんとともに作る代表選挙にしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

■ 質疑

【難波司会者】

それでは、記者の皆さんとの質疑応答の時間とさせていただきます。最初に、野党クラブ幹事社の方から3候補に共通の質問を2、3問いただきたいと思っています。回答は選管の指名に基づいた順番でお願いをいたします。

まず最初に野党クラブ幹事社の方から3候補に共通の質問を2、3問いただきたいと思っています。候補者の皆様は1分をめぐりにお答えください。

○安倍政権・アベノミクスとの対立軸について

【共同通信・関記者】

冒頭1問、お三方にお伺いいたします。安倍政権との一番の大きな対立軸というのは何でしょうか。特に経済政策についてのお考えをお聞かせください。

【蓮舫候補】

最大の違いは分配のあり方だと思います。確かに安倍総理の経済政策、税収増になっている、この部分は一定の評価をさせていただきますけれども、そのお金の使われ方が、例えば補正予算で、「アベノミクスの成果が行き届いていないところに」という形で、次世代への借金を減ら

すというところにつながっていません。いよいよアベノミクスの成果も、この秋に議論される補正予算を見ると、純粹に見ていくと2500億円しかなくなりました。建設国債で借金をまたするという事態になっています。私、非常にもったいないと思います。

限られた財源、限られた税収があるのであれば、3年9ヵ月かけて結果が出ていないのであれば、それは踏みとどまって一度考え直して、どこに再投資・再分配をしていくかを考えるべきで、私たちにはその答えがあります。それは「人への投資」。教育、保育、あるいは高齢者の人たちの安心に使う、それが我々の一番の大きな違いです。

【前原候補】

私は、アベノミクスを全く評価していません。「金融一本足打法」で、金融緩和をして、金利を下げて、そして金利差で円安にして株高にしている、そして所得税（収）と法人税（収）が上がるのは当たり前です。税収増になるのは当たり前。

しかし、その対極として、今、391兆円の国債を日銀に買わせている。これ高い値段で買っていますから、将来これを償却する、あるいは売却する時には、金利が上がって国債の値段は下がりますから。そういう潜在的な負債を考えた時に、「税収増でアベノミクスは成功した」ということは全く言えないと私は思っています。

つまりは、これは破綻への壮大な実験でしかない。つまりは金融緩和できなくなった時に、アベノミクスは命脈ともに尽きる。そういう危険なギャンブルは終わらせなければいけない、そう思っています。

したがって私は、行革と、そして「All for All」の考え方に基づいて、皆さんに税負担を求めて、そして国民の安心につながるような教育、職業訓練、社会保障、こういったものの安定を通じて、それが人への成長、潜在成長率の上昇、そして消費の喚起、こういう好循環をつくっていくことが我々の経済政策だと思っています。

【玉木候補】

自民党の政策との最大の違いは、自民党は短期のことしか考えていません。今さえよければいい、株が上がればいい、補正予算で近くの景気がよくなればいい。

それに対して我々は、構造的な問題に挑戦したいと思います。実は日本の最大の課題は、人口が減少し子どもの数が減っていること。これを30年も40年もほったらかしにしてきたのは自民党です。だから私は、借金をして公共事業をやるのが自民党であれば、我々は借金してでも未来への投資、子どもたちへの支援を思い切って大胆に行っていきたい。そのことが、日本が抱える構造問題に、長期の問題に答えることだし、結果としてそれが将来の安心をつくれれば、景気的好循環や消費の拡大、経済成長につながると考えています。

○憲法改正・憲法9条に対する姿勢について

【共同通信・関記者】

2点目をお伺いいたします。憲法改正に対する姿勢をお聞かせください。9条改正の是非についてもあわせてお考えをお願いいたします。

【前原候補】

参議院選挙の民進党の公約、憲法改正につきましてはどういう考え方だったかといいますと、要は、制約なき集団的自衛権を認めるような、平和主義を脅かす憲法9条改正には反対であると、こういうことが掲げられております。これについてはしっかり守っていかなくてはいけないと思っています。

私からの従来の主張というのは、憲法が公布された後に自衛隊がつくられたわけですが、自衛隊の位置づけがない。これについてはしっかりと党内で議論すべきだというのが私の考え方であり、平和主義はしっかり守っていききたいと思います。

また同時に、将来の日本を構想する憲法論議を進めていくというのが我が党の考え方でございますので、しっかりと、この考え方に基づいて党内の議論はしていきたいし、憲法審査会については3条件を今与党に提示しておりますので、その条件が整う段階において議論をしていくことが大事かなと考えております。

【玉木候補】

まず立憲主義を守る、これが大原則です。その上で、これは安保法制の時にすごく感じましたが、やはり憲法裁判所の必要性、あるいは衆議院と参議院との関係、あるいは地方自治など統治機構のあり方などについては積極的に議論すべきだと思います。

そして旧民主党でまとめた、2005年の「憲法提言」。ああいったものを、私は民進党でも1年ぐらいのめどでまとめるべきだと思います。議論の中で変えるべきものも出てくるかもしれませんが、逆に変えてはならないものも明確になってくると思います。

9条に関しては、先ほども話がありました、制約のないフルスペックの集団的自衛権を認めるような、あるいは海外での自衛隊の武力行使を認めるような9条の改正には反対です。

【蓮舫候補】

安倍首相が立憲主義を踏みにじったことによって、これは結果として国民の皆様方が憲法について考える、ある意味いい機会になりました。その中で出てきた大きな声は、「9条を守ってほしい」「平和主義を守ってもらいたい」、立憲主義の考えでいったら、国民のこの声はとても大事です。憲法9条は守りたいと私は思っています。

ただ、その上で、時代の変化。71年を経て、今の日本の社会のサイズ、社会のさまざまな問題・課題に対して憲法で足りないところはないのか。あるいは、ここはもう少し考え直したほうがいいんじゃないか、というところはあると思います。例えば8章、地方自治のあり方。これはやはり今の時代の日本の国のあり方に向いていないと私は思いますので、考えるべき。

あるいは自民党の憲法草案の家族観、あるいは憲法が国民に義務を課すというような考え方（に対して）は、ものすごく違和感を持っています。

だから、こういうところをもう一度、2005年の当時の民主党の枝野会長のもとの憲法調査会、ここでまとめたもの、それを一つの案として調査会的なものをつくったほうがいいのかどうなのか。これは代表に選ばれた後、党内でその声を聴きたいと思っています。

○自身のアピールポイントについて

【テレビ朝日・白川記者】

ご自身が、他の2人の候補と比べて「ここが違うんだ」という点、そして選挙に出られるからには勝利を目指しておられると思うのですが、他の2人より自分が、「だからこそ代表にふさわしいんだ」というところがあればお聞かせください。

【玉木候補】

お二人は本当に尊敬する先輩です。一番の違いは、明確です、私が一番田舎者。今も田んぼの真ん中に住んでいます。家族3世代で住んでいます。裏山からイノシシが出てきます。でも、そういうところに住んでいるからこそ、田舎には空き家の問題、耕作放棄地の問題、あるいは独居老人が増えて訪問介護・在宅介護は十分なのか、そんなことに不安を感じながら暮らしている人たちの最も近いところに私は暮らしています。ですから農業政策、当選以来ずっと取り組んできましたが、やはり地域をどうやって元気にしていくのか。特に農業・農村、これをどう元気にしていくのか。このことについて思いを持ってこれまで取り組んできた自負がありますので、代表になってもこれは堂々と訴えたいと思います。

もう一つ。私、四国の出身で、参議院選挙は東北や北海道、関東は勝ったのですが、西日本はボロボロです。西日本の地域組織の再編・強化、このことにも取り組みたいと思います。

【蓮舫候補】

最大の違いは、女性だということです。

もちろん前原さんと玉木さんも、私以上に女性的というか、女性のことをちゃんと尊重してくださるすばらしい仲間だと思っています。だから、そういう部分では大きな違いはないのかもしれないけれども、私が代表になれば、おそらく「ガラスの天井」に向き合っている人たちが、「自分ももうちょっと頑張ってみようか」。もちろん上を目指すということではなくて、「今ここにいる息苦しさを政界で打ち破ろうとしている人がいるんだ。じゃあ、自分ももうちょっと頑張ってみよう」、その元気を、私は日本の女性、その女性を支えている男性、すべてに与えたい。そのための発信力も持っていると思います。

時に発信力が間違った方向に行くときもあるのが私の悪いところですけども、そこは前原さんや玉木さんや、我が党には優秀な仲間がいっぱいいます。支えてもらっています。支え合う民進党をつくれると私は思っています。

【前原候補】

一番、年食ってますんで。最年長の候補ですので、一番の私のポイントというと、やはり失敗の経験をたくさんしたということだと思います。43歳で代表にさせていただきました。7ヵ月で辞めるということになりました。また、政権与党のときにも大臣を辞めるということもありました。やはり「なる」というときには勢いがあるのですが、守りとか、あるいはガバナビリティ、人をどう使うか、人の気持ちにどう応えるか、こういうものは長年の蓄積でないとなかなかわかりません。

私は先ほど、民主党の失敗ということを申し上げましたが、やはり一つの大きな失敗は、与党になったのに、お互いが角を突き合わせて、ガバナビリティーを発揮できなかったこと。これが最大の問題点の一つだと思っております、こういうものをまとめる経験と、そして失敗から我々は学んだ、そういった統合力をしっかり引き出せるのは私ではないかと、そう自負しております。

【難波司会者】

ありがとうございました。

それではこれ以降は、ご参加をいただいております各社記者の皆様からのご質問をお受けいたします。一問一答形式で行います。

○野党連携について

【NHK・花岡記者】

3人の皆さんにお伺いしたいと思います。まず参院選での野党統一候補という戦い方についての評価と、来るべき衆議院選挙では、民進党は野党連携についてはどのようなやり方が望ましいとお考えになっているかお聞かせください。

【蓮舫候補】

バラバラに候補者を出していたら絶対に勝てない地域で勝たせていただいたところがあります。この部分では一定の評価はあると考えています。

ただ、私は東京ですべての野党と戦っていました。その中で2人、私たちは勝たせていただきました。そういう部分では、全体として、あの参院選で野党の連携が絶対だったとは言えないと思っているんです。こうした基礎的枠組みが今後どういう展開ができるのかは、もう一度、代表になってから党の皆様方、あるいはこれから代表選が始まっていきますので、党员・サポーターの皆様方の声には真摯に耳を傾けさせていただきます。

ただ、衆議院議員選挙で、綱領が違う、政策が違う政党と政権を目指すことはあり得ません。

【前原候補】

参議院選挙では、野党共闘というのは一定の結果・評価があったのではないかと考えていますが、ただ衆議院選挙は政権選択の選挙でございますので、私は、一度「岡田路線」はリセットすべきだと思っています。

一番悪い例は、東京都知事選だったと思います。野党4党共闘ありき、そして政策は後回しで有名人を出した。こういうやり方は国民をバカにしていると私は思っています。

したがって、内政、外交・安全保障、こういった考え方において一致する、特に天皇制、自衛隊、日米安保、消費税、こういったものをしっかりと共通認識が持てる政党としか我々は連立を組むつもりはないということを、しっかりと高らかに上げるべきだと思います。

左の票を取りに行くのではなくて、真ん中の、ど真ん中の、本当に自民党に代わる改革勢力、あるいは日本を安心させてくれる勢力、これを期待している層にしっかりとメッセージを発す

るのが新生民進党であるべきだと、私はそう思っています。

【玉木候補】

基本的考え方の違う政党とは一線を画す、これが大原則です。

ただ、今回の代表選挙もそうですが、他党との関係がどうだこうだと聞かれるような政党であることが問題で、我々の中長期的には単独で政権を担えるような政党になっていかなければいけませんし、そのための実力を、苦しいけれどもコツコツコツつけていくことが、私は大原則だと思っていますから、その意味で一線を画する、これが大原則だと思っています。

○衆議院選挙への鞍替え出馬について

【朝日新聞・中崎記者】

蓮舫さんは3候補の中で唯一、参議院議員でもおありだが、きょうの午前中のぶら下がりでも、衆議院議員への鞍替えについて覚悟はあるとおっしゃった。具体的にどのような展望をお持ちなのか伺いたいのと、来月には（衆議院の）補選もごぞいます。補選に出馬するお考えがあるかどうかについてもあわせて伺えますか。

【蓮舫候補】

当然、この政党を政権交代まで導いていく覚悟を持っていますので、私自身が今の参議院議員ではいけないという認識も持っています。その部分で覚悟はいつでも行動に移そうと考えています。

○安倍政権・アベノミクスとの対立軸について

【ニコニコ動画・七尾記者】

国民の最大の関心事は経済であることは、各種調査、選挙結果でも見てとれます。アベノミクスを評価されていないということで、それぞれ基本的な考え方や個別のお話はあったのですが、一方で「アベノミクス」という言葉はわかりやすく、国内外に浸透しているのは事実だと思います。政権を奪還するためには、国民が期待できる、具体的かつ実現可能な政策パッケージが必要で、加えまして、この「アベノミクス・3本の矢」に対抗できる「わかりやすいキーワード」も重要だという声がありますが、この点はどうお考えでしょうか。お三方に伺いたい。

【前原候補】

今回の選挙で愚直に私が訴え続けていきたいのは、「All for All」。これは誰が聞いてもわからないと思うんですね。「みんながみんなのために」って何か、そこからスタートしたいと思っているんです。

したがって、「All for All」にまず関心を持っていただく。そしてそれが、「みんなが負担をし、みんなが受益者になる」、そして受益の中身についてもしっかりと示していく。その中で理解が深

まって、結果的にそれが「マエハラノミクス」と言われるようになればいいと私は思っています。

【玉木候補】

「タマキノミクス」を出したいなと思うのですが、一つは「こども国債」です。

経済政策は大きく三つしかなくて、金融政策、財政政策と、いわゆる規制改革をはじめとした構造改革なんです。一番目の金融政策については、(アベノミクスは)やり過ぎなので。ただ、一定の緩和は必要です、今の状況。世界的な中で決まっていくから。だから2年で2%という目標は少し柔軟化して、日銀の国債買い取りのボリュームをちょっと柔軟化したほうがいいなというのが一点。

財政政策は、これは明確です。借金して公共事業をやるのが自民党。借金してでも次の世代に投資して教育や子育ての支援を充実させる、具体的に言うと、毎年5兆円、20年間で100兆円増やすのが我々民進党。

三つ目の構造改革は、(アベノミクスは)改革のための改革で、何のこっちゃわからんような改革がいっぱいある。実は、インターネット陳情というのを私、ぜひ提案したいと思うのは、今、AIとか使うといろいろなことを、分類も自動でできますから。山のように来るんですよ、私も陳情をいっぱい受けますからわかるんですけども、(AIの活用で)それなりの累計ができて、これは即文科省、即経産省、即農水省とやって、「1週間以内に答えろ」と。このやりとりを全部オープンにします。「明治22年の訓令があるからできません」とか言ってきたら、それは国民に見てもらって、「おかしいじゃねえか」と言って、国民の力で規制改革をしてビジネスを前に進めていく。こういうことをやりたいと思います。

【蓮舫候補】

私は、「ナントカミクス」という考え方はもう死語に近いと思っている。ある意味、レーガノミクスとかサッチャリズムとか世界の新自由主義が、今もう一度、「本当によかったのか」と立ち止まるときだと思っているんです。結果として、究極の資本主義は、究極の格差拡大に広がっています。ある意味、いろいろな国家が保護主義に走り始めている。ここはやはり、何でもかんでも経済最優先だけという考え方は、もう一回立ち止まりたい。

幸い、私は「蓮舫といたら仕分け」とか「蓮舫といたら行革」とか、そういう部分で象徴的に表現をされやすいものですから、「蓮舫、民進党、人に投資、人に優しい、再分配」、そういうイメージを持っていただけるような、じわじわと信頼できる、その後で言葉がついてくるような。言葉が先走るような政治ではない。信頼を取り戻すための一つ一つの積み重ねだと思っています。

○「新しい民進党」の発信について

【ビデオニュース・神保記者】

政策論は非常に大事だと思うが、先ほど皆さんおっしゃっていたように、要するに何を言ってもなかなかまだ聞いてもらえない、信じてもらえない状況があることは間違いないわけですよ。

よね。もう3年以上たつわけです。そこで、絶対に必要になるのは、「民進党は変わったな」と、「こう変わったんだ」と、政策論云々のレベルよりもうちょっと深いところかもしれませんが、「こう変わったんだ」と思ってもらえる、あるいは変わったことを見せるために、それぞれの候補は何をしようと思っているのか。代表選の中で、自分はこうやって変わったことを証明してみせるというものがあれば、ぜひそれをお聞きしたい。

【玉木候補】

私が当選することが、一番変わったことにつながると思います。

もう一つは、“GNN”を上げていくこと。これは何かというと、「義理と人情と浪花節」。私、この間、実は出馬に至る経緯で「おまえは冷たい。政策はよくわかるが、義理と人情と浪花節がわかっていない」といっぱい言われました。そのとおりだと思いました。私も変わっていかなければいけないと思いました。それがあつ種、旧民主党、民進党の悪い意味でのイメージであれば、もっと義理や人情、浪花節、そういった人の気持ちや感情、つながり、こういったことを本当にわかつた結束の強い組織に変えていくことが、一番その変化を国民の皆さんにも示すことになるのだと思います。

【蓮舫候補】

「蓮舫代表」になっただけで大きく変わります。それは玉木さんも前原さんも同じです。みんなその思いでここに立っています。やはり「新世代民進党をしっかりとつくっていくんだ」、このメッセージをこれから15日まで打ち出していく、皆様方に報道していただく、それが届いてもらいたい。

その後、どうやって「変わった」感を維持するかが一番問題だと思っています。ここにおいては私は奇策はないと思っています。愚直なまでに、批判ではなく提案、批判ではなく創造、私たちはそれを示し続けていくことだと思っています。

もう一つ言うと、自民党になくなつてきた「情と理」の情の部分。民進党はもともとこの情の部分の部分が薄いです。理にたけた人材はたくさんいますけれども。ただ今回、いろいろ党内の方たちとお話をさせていただいて、まさに老壮青、皆さん方が持っている情の部分ってすごく深いんですよね。私はちょうど真ん中の世代に位置していますので、母親的な感覚も含めて、上と下の世代を情でつなげることができたらなと思っています。

【前原候補】

私も含めて、3年3ヵ月の政権与党のとき、それは自分のやつたことを否定するというのは非常につらいことです。皆さん、あれもやつた、これもやつたという思いがあると思いますが、先ほどお話をしたように、「何もできませんでした」と。そして、「トータルとして、皆さんから「失敗」の烙印を押されましたということをしっかり認めない。そこが民進党に対する信頼が来ていない最大の理由だと私は思っています。

したがって、我々はあれもやりました、これもやりましたといことはもう一切言わない。「期待を裏切つた、申しわけない。そして、またゼロから、民進党として皆さん方の信頼に応えるために頑張らせていただきたい」、そういうことを、戦犯である私が代表になつて、そして皆さ

ん方にゼロからお話をするのが、一番のスタートになるのではないかと。そうしないと、幾らいい政策を言っても、たぶん聞いてもらえない。まだ聞いてもらえない。そういう感覚でおります。

○名刺等への党名記載について

【朝日新聞・星野記者】

玉木さんにお伺いいたします。

ことし6月に玉木さんにご挨拶させていただいたときに頂いた名刺に、「民進党」の文字が表裏にありませんでした。最近頂いた別の同僚も同じような名刺だったと伺っております。ホームページのトップページにも「民進党」の文字がありません。これは何か理由があるのでしょうか。

【玉木候補】

更新が遅れております。

それとアメリカの上院議員・下院議員は、たしか政党のロゴ等を名刺に入れません。ちょっとそれをまねしました。

○TPP・農業政策について

【日本農業新聞・西野記者】

3人にお伺いしたいが、与党は臨時国会でTPPの承認を目指していると思うが、このTPPに対してどう対応するか。賛否と、その審議に応じるかどうかも含めて、お願いします。

加えて、農業政策、「こうしたい」ということがあれば、お考えをお願いします。

【蓮舫候補】

大切なのは、我が国だけで決められる話ではもちろんありません。自由貿易体制を進めていくというのは私たち全員共通の課題ですが、アメリカの大統領選の候補者2人が、ものすごくこれは明確に否定をしています。ですからその段階で、今まで私たちが積み上げてきたものを、日本だけが進める環境にはないと思っています。

もう一つは、交渉過程も含めて、まさに真っ黒々に塗りつぶされた。途中経過が野党に、あるいは国民に、あるいは農業従事者にわからない情報公開のあり方は、私はおかしいと思っています。

国会決議でまとめた重要5品目についても守り切れていなかった。このことは大変重いものだと思います。

今回の、政府が出してくるであろうTPP関連法案は、我々は残念ながら同じ土俵にまず立てないと思っています。

【前原候補】

我が国はA P E Cに入っておりまして、「ボゴール目標」というのがあります。つまりは、20の地域・国において自由な経済体制をつくるという意味において、このT P Pは一つの山の登り方だと。そして、まさに日米安保体制という安全保障の共通の同盟関係にある国が、経済でも同じプラットフォームをつくるという戦略的な意味においては、総論において必要な取り組みだと思っておりますが、我々の政権のときは入り口に入れなかったわけです。つまり、アメリカに譲歩というものを強いられることによって我々は国益が失われるということで、入りませんでした。安倍政権になって簡単に入った。国益を失ったんですね。

そして、まさに交渉過程が明らかにされないということもあり、資料も出してもらえないということにおいては、国会で議論できるような素地が全くできていないと思います。

そして同時に、(オバマ大統領の残りの任期での) レームダック・セッションでまとめるという話はありませんでしたが、これも難しくなってきたということになれば、アメリカが批准しないものについては、これはトランプ・クリントン両候補は「反対だ」と言っていますので、これは成立する見込みはありません。こういうものを、貴重な国会の時間を使って議論するという事はナンセンスだということで、それを前提に国会に入りたい。T P Pを今のまま無理やり押し通していくということには反対をしたいと思います。

【玉木候補】

T P Pの特別委員会で私、何度も審議に立ちました。中身のわからないものに判を押すことはできません。今回のT P P交渉には反対です。特にコメについて、アメリカから7万トン入ってくると文書には書いてありますが、密約もあって、実は11万8千トンではないか。アメリカの公式文書には書かれています。こういったことを明らかにしないと、とても批准することはできないと思っています。

農業政策については、実は安倍政権になってから農業所得は下がりっぱなしです。これは民主党政権時代に非常に評価の高かった戸別所得補償制度、これを半額にし、平成30年からやめようとしています。私は、この戸別所得補償制度をさらにアップグレードして、E U型の共通農業政策のような、例えば環境加算であるとか、消費者の視点に立った作り方をしたらさらに交付額を増やすような、環境や消費者目線の交付基準。こういった新たな制度にアップグレードして、いずれにしても直接支払い、所得をしっかりと保障する制度を復活させていきたいと思っています。

それと、農政ほど地方分権が求められるものはありません。地域によってつくるものは別々ですから、バラバラですから。ですから農政局単位に農業分野ならば何にでも使える交付金を出して、地域が何に使うか、「うちはコメだ」「うちは野菜だ。ブロッコリーだ」「ハウス野菜だ」、いろいろなことを地方が選べる、そういう交付金化していくことも大切だと思っています。

○野党連携について

【T B S・牧野記者】

お三方にお伺いしたいのですが、共産党との関係ですけれども、お三方とも「ともに政権を目指さない」ということは一致していると思うのですが、衆議院選挙での選挙協力については

するのか、しないのか、教えていただければと思います。

【前原候補】

基本政策、内政、外交・安全保障において、一致しない政党とは連立を組まないということは申し上げたとおりであります。

そして選挙については、我々は自分たちの考え方を中心に政権をつくりたいと思っているわけですから、共産党に限らず他の野党がどう考えるかということの判断であって、我々がとやかく言うことではない。それは他党の判断になると思います。

【玉木候補】

2009年の選挙のときがベストだと思っています。いろいろな各党、考えがありますが、あのときは事実上、共産党さんが（候補者を）立てなかったことによって選挙区当選した民主党の候補者もたくさんいましたが、ただ、今回のような形のいわゆる共闘・連携という形はとっていませんね。

私、先ほど申し上げたように、一線を画するのが大原則ですが、個々の選挙区事情によって、それぞれいろいろな思いで一つの結果に至ることはあるのかなと思っています。

【蓮舫候補】

選挙は、やはり政策で選んでもらえるものです。私たち民進党は、やはりここは政策集団であるという原点に、次の総選挙、誰が代表になっても、そこは力強く打ち出していくこととなります。その政策に対して他党がどのようなご判断をするのか、それは私たちが口を出すところではないと思っています。

■まとめ

【難波司会者】

それでは、最後になりますけれども、各候補者から一言ずつ、まとめの発言をいただきたいと思います。一人1分程度ということでお願いを申し上げます。

【蓮舫候補】

はい、頑張ります。

15日まで11カ所、日本じゅうを回ります。党员・サポーターの皆様方が「民進党じゃなきゃな」と言われていた言葉の重さを、私は誰よりもわかっています。だから、民進党だから応援したくなるような代表選、民進党だから頑張ってもらいたいと応援していただけるような言葉をもって、しっかりこの戦いを乗り切って、ぜひ「蓮舫代表」になりたいとあらためて思っております。

ありがとうございました。

【前原候補】

日本は不安に満ちている。そして、アベノミクスは壮大な実験で、破綻がどんどんどんどん近づいている。日本は崖っ縁だと思います。しかし、その崖っ縁の日本を救える野党の第一党が極めて心もとない、頼りない。そういう意味においては、今回の民進党の選挙は歴史に残る選挙だと私は思っています。ここで反転攻勢のきっかけをつくれなかったら、民主主義が機能しない国に日本をしてしまう危険性がある。これは民進党がだめになるだけではなくて、日本全体が危機に陥る。それぐらいの今回の選挙の重要性を私はひしひしと感じております。

私のモットーは、「天命に生きる」です。もちろん自分の当選に向けて頑張りますけれども、民進党のこの代表選挙が今回の天命だと。天命に背けばこの政党は存続しない。それぐらいの覚悟で臨んでいきたいと思えます。

ありがとうございました。

【玉木候補】

私、学生時代、陸上競技の選手でした。十種競技というのをやっていました。今回のオリンピックで一番感動したのは、男子400メートルリレー。なぜかというと、日本人選手はいまだ9秒台の選手はいませんね。100メートルで決勝に残る選手もいない。でも、そういった選手が4人集まって走ると、世界2番目になる。私、日本の姿を見ました。

民進党も一人ひとりそれぞれ力を持っている。でも、大切なことは、それを集めて、それぞれの力以上のものを組織として発揮できるような、そんな集団に、この選挙を通じて、みんなが思いを一つにして生まれ変わっていく。その産みのプロセス、産みの苦しみを、しっかり心に刻んで頑張りたいと思えます。

【難波司会者】

ありがとうございます。予定の時刻となりましたので、これで民進党代表選候補者共同記者会見、終了してまいりたいと思えます。ご協力をいただきましたメディア各社の皆さん、記者の皆さん、大変ありがとうございました。

明日、大阪を皮切りといたしまして、11ブロック・10カ所で全国、3候補者の熱い熱い訴えをこれから開催してまいります。どうか国民の皆さんに、本当に熱い、きょうのような思いを伝えていただける、そんな代表選挙にさせていただきますよう、3人の候補者の皆さんにご期待を申し上げておきたいと思えます。

(以上)

=====

編集・発行／民進党役員室

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

<https://www.minshin.jp/>

Copyright (C) 2016 The Democratic Party.

*掲載内容を故意に歪める形での再配布はご遠慮ください。

=====